

ラジウムによる紅斑性狼瘡の治療に関する短報

Note sur le traitement du lupus érythémateux par des applications de radium

Danlos MM, Bloch P. Ann Dermatol Syphilog 2:986-8,1901

1896年3月2日、H. Becquerre氏は、すべてのウラン塩、金属ウランは、通常の光線が不透過な物体を通過し、また写真乾板を感光する光線を、外部の刺激なしに連続的に放出していることを報告した。このウラン線あるいは Becquerel 線と呼ばれる光線の研究は、放射性金属に関する数々の実験から生まれたものであった。まず Curie 夫人は、ある種のウラン鉱石が金属ウランそのものより強力な放射能を持つことを知り、ウランより強い放射能を出す道の物質が存在するに違いないと考えた。この事実が、Curie 夫妻のポロニウム、ラジウム発見、Debiere 氏のアクチニウムの発見に至る偉業の背景となった。

この新物質、特にラジウムの研究の過程で、Becquerel 氏、Curie 夫妻は、放射性物質の作用は無機物に限らず、生体の組織にも、より強力なレントゲン線に匹敵するような作用を及ぼすことを自らの身をもって示した。このことから、彼らは新物質から出る放射線の生理学的作用を、治療に活用できるのではないかと考えた。

Besnier 氏の御好意により、我々はこれを試みることができた。我々の研究は非常に不完全であり、一般的な結論を導くことはできない。ここでは、紅斑性狼瘡の症例について得られた事実に限って供覧する。我々が Curie 氏から託された物質は、白っぽい粉末（微量の塩化ラジウムを含む塩化バリウム）で、ゴム製あるいはセルロイド製の密封された平たい小袋に入っていた。厚さは2~3mmで、放射能は袋によって異なり、金属ウランを単位として1,000~5,200であった。

健康皮膚に絆創膏で固定し、24~48時間置くと、最初は何も変化がないが、とりはずす時には直下の皮膚がやや発赤している。この発赤は、持続あるいは5~6日で減弱する。その後は、弛緩した水疱を生じる場合、生じない場合があり、表皮剥脱の治療には長期間を要する。非常に強い場合は、病変はより深く、壊死に至る場合が多い。我々の手元にある物質については、それほど強いものは無かった。

この治療を試みた紅斑性狼瘡の症例のうち、2例のみがフォローアップできた。

その内の1例、Tr...は、12年来の紅斑性狼瘡で、既に Saint Louis 病院で治療されてきたが良い結果は得られていなかった。病変は、顔面、耳の全体、頸部の一部に及んでいた。上肢、手首の背側にも広範な病変があった。いずれの部位にも癬痕性萎縮の傾向は認めな

かった。6月下旬、強度5,200の試料を、左手首の背側(24時間)、右環指(48時間)、右手背(48時間)貼付した。6月に行われて以後、前述のような現象が認められた。現在、ラジウム治療を行った部位以外、狼瘡の病変は元の状態にある。治療部位は発赤した背景に白い融合性の島状で、この状態を3ヵ月保っている。

この部分的な治癒は永続的なものであろうか？まだ確認するには時期尚早であるが、他のいかなる方法をもってこのような結果は得られないであろうことは確かである。確認には多くの光線治療が必要と思われるが、2例目の症例でこれを確認できた。

Saint Louis 病院の患者、症例B...は、20年来紅斑性狼瘡に罹患しており、Vidal, Besnier, Brocq, Danlosらが様々な治療を行なったが、進行が止まらなかった。治療の無効に失望した患者はすべての治療を中止し、しばしば我々に(本人曰く)虐められなくなってから病気も前ほど意地悪なくなると繰り返し話していた。Finsen 法によって良い結果が得られた後、患者は新しい方法にチャレンジすることにした。そして、顔の一部を光線治療で、その他の部位をラジウム治療することになった。現在のところ、顔の右側に光線治療110回、左側にラジウム治療5回を施行した。ラジウム板の強度は5,200で、病変部の異なる部位に、それぞれ24時間、39時間、39時間、40時間、63時間接触させた。この間、粉末をいれた袋が破れ、最後の2回の治療の最中に放射性物質のかなりの部分が失われた。この不利にも関わらず、差異は明らかである。治療開始時には概ね同じ状態であった顔面の両側は、現在非常に異なっており、ラジウム治療側は光線治療側に比べて大きく変化している。

この試みは継続し、他の紅斑性狼瘡の症例、その他の皮膚疾患にも拡大する予定である。いずれその結果が判明すると考えられる。現在のところ、ラジウム治療は光線治療に対して3つの利点があると暫定的に述べるにとどめる。強度、簡便性、無害性である。強度については、前述の比較の通りである。簡便性については、皮膚の上に小さな袋を置いて固定するだけである。無害性については、ラジウムは光線治療で通常みられるような治療後の有痛性反応を示さないことである。